

(様式1・小学校用①)

平成30年度 学 校 評 価

草加市立松原小学校

(平成31年2月13日作成)

1 学校教育目標	
○心身ともに健康で自ら学ぶ子 (やさしい心・強い心・健やかな体・自ら学ぶ力)	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
・基礎的・基本的な学力の定着 ・家庭地域との連携 ・学級経営の充実 ・個を生かす指導 ・学校行事の充実 ・健康、体力の向上 ・生徒指導の充実 ・道徳教育の充実悠 ・幼保小中を一貫した教育	成果 ○学校教育目標・学校経営方針をもとに、教職員の共通理解共通行動と家庭・地域連携により、知徳体のバランスのよい取組を進めることができ、健康で明るい児童の育成を推進することができた。 課題 ●児童一人一人の課題に応じた、学力向上への指導方法の改善と工夫。体力向上への取組。 ●いつでも、どこでも、誰とでも明るくあいさつできる児童の育成の継続。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	A	○開校10年間を通して校風（歌声・挨拶・俳句）を築いてきた。児童一人一人の個性を生かし組織力のある運営と指導がなされた。 ●人材育成を進め、校務分掌組織を生かして、業務の効率化を図るとともに課題解決への手立ての構築と全職員の共通理解と指導の徹底を進める。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○中学校区の一貫した教育の研究を進めるとともに今年度は「特別の教科道徳」の研修を深めることができた。 ●一人一人の児童の実態に即した指導ができるように授業力・指導力の向上への研修を進める。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○地域・保護者と連携を深める中で市と県の歯科保健コンクールで高い評価を得ることができた。 ●健康で健やかな児童の育成を目指し、特に朝食についての家庭と連携を深めて、よりよい生活習慣を確立させる。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○教職員の意識を高めるための事例研修を行い、個人情報取扱要綱を確認し、個人情報漏洩事故防止、施設設備の安全点検を行い事故防止に努めた。 ●きめ細かな指導と管理、連絡・相談・報告を徹底していく。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員制度の活用 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○授業参観や学校公開を積極的に行い、HPの定期的更新等学校情報の発信と広報を行った。地域や学校応援団との情報交換と連携により充実した教育活動が展開できた。 ●課題を明らかにして、家庭との連携を深める。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編制 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○目指す子ども像に向け「まなび」「こころ」「からだ」の3部会を中心に研究と実践が深まった。 ●取組を実態に合わせて発展させ、保護者の理解をさらに深め、協力体制を築いていく。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	- 教育課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	A	○定期的に教育課程の進捗状況を確認し、児童の実態に応じた教育活動を適切に実施するために、見直しと改善に努めた。 ●実態に応じたきめ細かな教育計画、年間指導計画の改善をPDCAに基づいて進めていく。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - わかる授業づくり - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	A	○主体的で対話的な活動を取り入れた指導を推進することができた。 ●児童の実態に即した、学力向上への指導方法の工夫と改善を図り学力向上を推進する。
	③道徳教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳的実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	A	○学校公開期間における全学級の道徳授業の公開と、道徳週間活動を実施するとともに、評価方法の研修を進めることができた。 ●家庭・地域との連携を深め、道徳的実践力の育成を図っていく。
	④外国語活動	- 指導計画の立案 - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 各教科、道徳教育との関連 - 中学校との連携	A	○校内研修の充実、中学校教員の乗り入れ授業、ALTの効果的な活用、外国語活動室の環境整備の充実を進め、学習目標を達成できる学習活動を推進できた。 ●今後もすべての教員の指導力向上を推進する。
	⑤特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 児童会活動	A	○あいさつ運動と「ニコニコ給食&ニコニコ遊び」を異年齢集団の活動として充実させ、思いやりのある心豊かな児童の育成の推進ができた。 ●話し合い活動の指導方法を充実させていく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫	B	○外部施設利用や「県立草加かがやき特別支援学校」との異校種交流を通して指導を充実させることができた。 ●実態に応じた主体的な学びの場を広げていく。
	⑦生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、児童理解 - 基本的生活習慣の定着 - 保護者、地域、諸機関との連携	A	○生徒指導主任が中心となって、組織的な活動がなされ、問題行動等に対し、迅速かつ組織的な取組により、効果的な指導が行われた。 ●さらにいつでも、どこでも、誰とでも元気に挨拶できる児童育成への指導を充実させていく。
	⑧キャリア教育	- 計画の立案 - 指導内容の充実 - 中学校との連携 - 啓発的経験の充実 - 家庭、地域との連携強化	B	○中学校との連携や「エンジョイ中学校生活」により、中学校生活の紹介など具体的に将来を意識させる学習活動が進められた。 ●6ヶ年を通した教育計画をさらに充実させる。
	⑨特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	A	○研修を通して特別な支援を要する児童への指導方法の共通理解が図られ、一人一人に寄り添った支援を全教職員で行っていく体制ができた。 ●個別の指導計画や支援計画を生かし、細やかな支援ができるようにしていく。
	⑩学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	A	○計画的に蔵書の補充を行い、図書館の利用率貸出率を増加させ、児童の読書量が増えた。 ●読書好きの児童育成に向け指導の充実を進める。
	⑪情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - ICT機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	B	○PCルームの活用とともに、ICT機器、電子黒板や電子教科書を日常的に活用できた。 ●さらに児童の活用スキルの向上と、情報モラル教育の推進が課題となる。

⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との連携 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○今年度から人権教育週間を位置づけ、発達段階に応じたビデオ教材を活用して学習を進めた。 ●人権感覚の育成に向け、教員の指導力の向上を図っていく。
-------	--	---	---

(様式1・小学校用③)

草加市立松原小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	「学力・体力の向上」	・学力・学習状況調査結果分析 ・新体力テストの結果分析	B	○全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査において、これまでより平均値を上げることができた。また、この結果を分析し、取り組む中で、草加市学力・学習状況調査でも昨年度より平均値を上げることができた。 ●各種学力調査等、児童が学習に対してできた、わかったという実感が持てるように指導していく。 ●新体力テストにおいては、県平均を下回る項目もあるが、今後は本校の児童の課題である筋力・柔軟性を中心に体力の向上を推進していく。
	「松原小学校の校風の確立」	・松原小音楽祭の開催 ・いつでもどこでも誰とでも明るいあいさつ ・6ヶ年、年間を通した俳句作りの取組	A	○開校10周年記念式典や第3回「松原小音楽祭」では日頃から培ってきた美しい歌声を保護者地域に披露することができた。 ○地域の方や来校者から、児童の元気なあいさつがすばらしいとお褒めのことばをいただくことが増えてきた。 ○開校以来継続している6ヶ年の系統立てた俳句作りの指導の中で、豊かな表現力を培うことができた。 ●保護者、地域、中学校とも連携協力して「あいさつ運動」に取り組む中で、成果を上げてきたが、さらにいつでもどこでも自分からあいさつができる児童の育成を継続していく。
	「一人一人を大切に、信頼関係に立った生徒指導の充実」	・不登校児童の根絶 ・いじめの早期発見早期対応	B	○児童の変化と情報を見落とさず、一人一人に寄り添い、問題行動等には早急に組織的かつ各種関係機関と連携を取り、組織的に対応することができた。 ●不登校等児童の実態に寄り添い、適切に問題解決できるようにしていく。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・教職員の共通理解・共通行動の意識が高まり、組織的な教育体制の構築が図られた。
- ・栄中校区3校では、「まなび」「こころ」「からだ」の部会や3校合同研修会を中心に取組を進め、栄中学校区幼保小中を一貫した教育に関わる研究発表会を開催することができた。研究発表会当日は、児童生徒が実際の取組の様子を発表することで、成長した児童生徒の姿を市内外の参会者に見ていただくことができた。
- ・全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査の実態を分析し、授業での指導方法の改善や朝学習の取組内容を見直し全教職員で指導に当たったことから、草加市学力・学習状況調査では成果を上げることができた。
- ・学校関係者評価においても、これまでの課題とされた児童のあいさつが年々しっかりできるようになってきていることや授業規律がどの学年もしっかりしていることが高く評価された。地域の方々から、登下校時に高学年児童の低学年児童に対するやさしい声かけや安全に対する行動の様子が複数報告され、児童が心身ともにすこやかに成長しているという評価を得ることができた。児童・保護者の学校生活への満足度が高いことや、開校10周年記念式典や「松原小音楽祭」で、校風である美しい歌声が響いたこと、伝統となった俳句学習の充実についても高い評価を受けることができた。

6 次年度の改善策

- ・児童の学力向上のために、各種学力調査児童の実態から課題を明らかにして取り組んでいくとともに、研修を充実させて教員一人一人の授業力や指導力を向上させる。
- ・保護者・地域と協力しながら、課題として明らかになった朝食の欠食児童ゼロと朝食内容の向上に取り組み、午前中に学習へ集中できる力を育成していく。
- ・いつでも、どこでも、誰とでも明るくあいさつができる児童のさらなる育成を継続するために、生徒指導部と児童会を中心に、栄中学校区あいさつ運動、地域あいさつの会とも協力して、取り組んでいく。
- ・体力、（特に筋力、柔軟性等）の向上をめざして、日頃の姿勢を正しくすることや、ロング昼休み「わくわくタイム」や業間外遊びの励行を引き続き行うとともに、業間運動「さわやかタイム」のマラソン、短なわとび、大なわとびの取組を充実させ、さらに一時間一時間の体育の授業を充実させる。